

HIDA および ^{131}I Rose Bengal 排泄極めて少なく、胆道閉塞症との鑑別が困難であろうと考えられる症例であった。

32. 肝疾患における $^{99\text{m}}\text{Tc-PI}$ の使用経験

守谷 保夫 小池 容史
青木 紘一 角本 芳隆
三原 藤正
(五稜郭病院・内)
高橋貞一郎
(札幌大・放)

Tc-PI を23例の患者に施行し、肝右葉の濃度を濃度計にて測定し、その濃度パターンと、疾患名、生化学的検査との関係を考察した。

15分から90分まで15分ごとの写真の濃度パターンにて3群に分類できる。第1群は、15分にて最大濃度となり、45～60分ほどで1/2最大濃度となる群で、肝機能正常範囲な症例が多く、胆のう炎、胆石症16例である。第2群は、最大濃度が低下し、かつ、遷延する群で、GOT、GPTの高値な急性肝炎など4例である。第3群は、立ち上がりが遅れ、1/2最大濃度になる時間が遷延する群で、Al-P、 γ -GTPの高値の膵癌など3例である。また、全症例にてGOT、GPTが高値のものは、最大濃度時間が遅れ、Al-P、 γ -GTPの高値のものは、1/2最大濃度時間が遅れており、最大濃度時間の遅延は、肝実質炎症、肝実質細胞の低下、1/2最大濃度時間の延長は、胆汁うっ滞型であることが、生化学的検査との関係において認められるように思われた。

33. $^{67}\text{Ga Citrate}$ による肺癌と肺結核の鑑別診断

西條 登 山口 一行
田中 瑞穂
(留萌病院・内)
浦波 賢二 蛭名 豊
坂井 典夫 齊藤 勲
浜林 幸信
(同・放)
高橋貞一郎
(札幌大・放)

ピッカー社製 DINA 4-C 型ガンマカメラにより Ga による肺シンチグラフィーを肺癌と肺結核について検討した。肺癌の場合、全例 Ga の集積を認め、胸部 X-P 上の病変部と骨との比は 1.43～2.25、正常肺との比は 2.10～3.40 であった。また、3 cm 幅の関心領域内のスライスプロファイルは急峻なパターンを示した。一方、肺結核においても Ga の集積をみたものは、18例中4例に認められたが、骨との比は 1.03～2.37、正常肺との比は 1.74～3.04 と肺癌の場合と差はなかった。しかし、そのスライスプロファイルは比較的平坦なパターンを示し、肺癌との鑑別上有用と思われた。